

論考2016

上田 紀行

私たち人間は未来を構築しながら生きていく存在である。より良い未来を築くためには、現在生きている問題を直視しなければならぬ。本論考も現在進行形の問題を取り上げつつ、未来志向で進めていきたい。

信用の失墜

最初に取り上げたいのは、昨春明らかになった数々の「立派な不正」の信用失墜である。10月に発売した横浜市のマンション傾斜問題では、検査データの改ざんなどにより一部の人が必要を深刻に感じている。元請けは三井住友建設、1次下請けが日立ハイテクノロジス、2次下請けで美際(株)を打ったのが旭化成建材。いずれも信頼を集めてきた「立派な」ブランドを冠した会社である。当初、担当者個人の不正とされたこの事件は、組織的だったことが明らかになっていった。

東宝が6年で計1500億円以上の利益を水増ししていたという不正会計事件にもかかわらず、これまでに

価値の転換と人間の尊厳

だがフォルクスワーゲン(VW)の不正を見れば、日本だけの問題ではないと分かる。欧州の中にも抜かされて

真面目なイメージがあるドイツにあって、国民車を出発点とするVWは特に質実剛健、真面目一辺倒の企業だと思われていた。その車が米国の排ガス規制をクリアするために、テスト時のみ排ガス浄化能力を最大化する不正ソフトウェアを搭載していたというのだ。それはカンニングで入試を突破するような行為だ。販売台数世界一を目指しての不正だというのが、なせ世界一にならたのかという哲学はない。テストで点数を取ることに力を費やし、人生の意味を何も考えていない学生に似ている。

06年に決められたという。リーマン・ショック前の米国バブルの時期に世界はマーケティング至上主義に転換してしまった。いいものを作れば売れるから「売れる物がないのだ」。「立派な会社は評価を得る」から「評価を得る会社は立派な会社だ」という価値の転換だ。

私たちの製品がどのように世界に貢献し、人々を幸せにするのかとは考えず、ひたすら売れまくって1位になる。経済的には勝利かもしれないが、人間の尊厳の敗北である。

「根源的試み」 私たちの人間観も同じだ。最近の学生は明らかに評価に敏感になった。課題を出すと「評価のポイントは何ですか」と必ず聞いてくる学生が多い。入試科目以外はまったく勉強してこない学生も多し。無駄なことはやらせ、評価を得られるだけをやれば確かに効率が良いかもしれない。しかしやがてその先にある空虚に悩まされることになるだろう。

記者会見を終え、一礼する田中久雄社長(当時)と手前からの入目。東宝幹部は2015年7月、東京都港区

最高賞に輝いた作品。人物の顔のパーツや体のラインを重ね合わせ再構成した。シート(麻布)を画布に使用し、なかからつとた雰囲気を感じて。

「母子」黄色をベースに描かれた油彩。子を抱く母の存在がしわじわと伝わってくる。不思議と大きく見える画だ。

2004年の自由美術展で「アジアから来た鳩女」。69年の作品「ふたり」。電

「下絵重ねにしむ温かみ」が、画風の変遷が見取れ興味を引く。具象から抽象へ。たとえ抽象でも描く人物や風景の形は柔らかなタッチで残す。赤をベースにした90年代の大作の数々は印象に残った。

2004年の自由美術展で「アジアから来た鳩女」。69年の作品「ふたり」。電

マーケティングが覆う世界



「下絵重ねにしむ温かみ」が、画風の変遷が見取れ興味を引く。具象から抽象へ。たとえ抽象でも描く人物や風景の形は柔らかなタッチで残す。赤をベースにした90年代の大作の数々は印象に残った。

「下絵重ねにしむ温かみ」が、画風の変遷が見取れ興味を引く。具象から抽象へ。たとえ抽象でも描く人物や風景の形は柔らかなタッチで残す。赤をベースにした90年代の大作の数々は印象に残った。

「下絵重ねにしむ温かみ」が、画風の変遷が見取れ興味を引く。具象から抽象へ。たとえ抽象でも描く人物や風景の形は柔らかなタッチで残す。赤をベースにした90年代の大作の数々は印象に残った。

独自の抽象 変遷示す

高知市出身の洋画家、吉見博の個展が高岡郡中土佐町久礼の中土佐町立美術館で開催されている。1990年代の代表作を中心に33点を展示している。17日まで(12日は休館)。

48年生まれ。追手前高卒業後に上京し、日本美術大学付属研究所で絵画を学ぶ。21歳で自由美術展に初出品で佳作賞を受賞。現在は自由美術協会運営委員。2年前にデนมックで個展を開くなど国内外で作品を発表している。神奈川県綾瀬市在住。

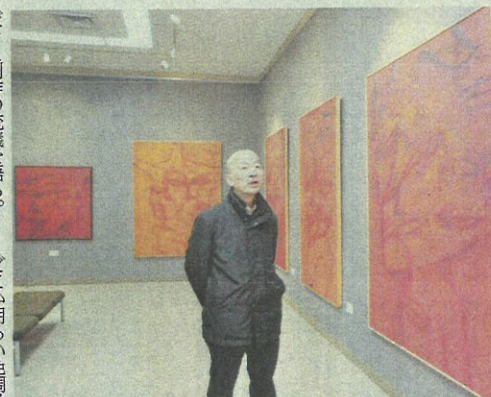
「下絵重ねにしむ温かみ」が、画風の変遷が見取れ興味を引く。具象から抽象へ。たとえ抽象でも描く人物や風景の形は柔らかなタッチで残す。赤をベースにした90年代の大作の数々は印象に残った。

「下絵重ねにしむ温かみ」が、画風の変遷が見取れ興味を引く。具象から抽象へ。たとえ抽象でも描く人物や風景の形は柔らかなタッチで残す。赤をベースにした90年代の大作の数々は印象に残った。

「下絵重ねにしむ温かみ」が、画風の変遷が見取れ興味を引く。具象から抽象へ。たとえ抽象でも描く人物や風景の形は柔らかなタッチで残す。赤をベースにした90年代の大作の数々は印象に残った。

「下絵重ねにしむ温かみ」が、画風の変遷が見取れ興味を引く。具象から抽象へ。たとえ抽象でも描く人物や風景の形は柔らかなタッチで残す。赤をベースにした90年代の大作の数々は印象に残った。

下絵重ねにしむ温かみ



「根源的な生命力に興味がある。作品として伝われば」と語る吉見博(中土佐町立美術館)

洋画家・吉見博(高知市) 中土佐町で個展

高知市出身の洋画家、吉見博の個展が高岡郡中土佐町久礼の中土佐町立美術館で開催されている。1990年代の代表作を中心に33点を展示している。17日まで(12日は休館)。

48年生まれ。追手前高卒業後に上京し、日本美術大学付属研究所で絵画を学ぶ。21歳で自由美術展に初出品で佳作賞を受賞。現在は自由美術協会運営委員。2年前にデนมックで個展を開くなど国内外で作品を発表している。神奈川県綾瀬市在住。

「下絵重ねにしむ温かみ」が、画風の変遷が見取れ興味を引く。具象から抽象へ。たとえ抽象でも描く人物や風景の形は柔らかなタッチで残す。赤をベースにした90年代の大作の数々は印象に残った。

「下絵重ねにしむ温かみ」が、画風の変遷が見取れ興味を引く。具象から抽象へ。たとえ抽象でも描く人物や風景の形は柔らかなタッチで残す。赤をベースにした90年代の大作の数々は印象に残った。

「下絵重ねにしむ温かみ」が、画風の変遷が見取れ興味を引く。具象から抽象へ。たとえ抽象でも描く人物や風景の形は柔らかなタッチで残す。赤をベースにした90年代の大作の数々は印象に残った。

- 文化 南園市の国吉や「芸文京展」入賞
- 【一席】 香美 牛小屋を壊す神
- 【二席】 須崎 枝打ちも絵で終
- 【三席】 香美 かなはりに車橋
- 【一席】 香美 「鬼太郎」連れ
- 【二席】 香美 「短日の陸軍の中
- 【三席】 高知 淡柿が変身する
- 【一席】 土佐 脱藩の龍馬の道
- 【二席】 高知 爆撃も銃撃もな
- 【三席】 黒潮 北風に吹かれて
- 【一席】 十
- 【二席】 高
- 【三席】 安

論考

2016

上田紀行

SMAPが解散か、というニュースを聞いたとき、あまりの驚きに水のごとに驚かされた。しかし本当の驚きはその後待っている。

「自由に生きる」は幻か

「SMAPのいない生活なんて考えられない」と知り合いの20代の女性は叫んだ。物心ついたときから彼女はSMAPを母と慕っていた。テレビをきければいつもSMAPがいて、彼女はSMAPとともに成長し、人生の一部となってしまっている。SMAPが解散してしまうのは自分の人生がなくなってしまうようなものなのだ。

「国民的スター」が一介の会社員、そして、使用人だったといわれてきた。あの無残な謝罪会見は何だかんだと驚き、私たちが使用人の分際であるにもかかわらず、このたは独立するなどという大それた事をいかにしようとしてしまっ、多くの方々に迷惑をおかけしました。これだけの大スターであつても自由に行動することなどできない、その事実を見せつけた会見はファンのみならず、多くの人々に大きな失望感を与えた。

さらに驚かされたのは「SMAPも自分たちの自由で何でもできる」と思いついてたんだよね」「会社員なら自分の立場をわきまえて行動しなよ」「はいけな。公開謝罪も当然だ。特に会社の同僚たちの前で謝罪は必須だ」といった意見が、一般の会社員の中でさざやかれているらしいことだ。

「は」は「会社を辞めるともできずこの不自由さに耐える自分もしょうがないのだ」と自分を納得させる機能である。しかしいじりてもどうにもやりきれない機能である。そして明らかに間違っている。会社員であるのが使用人であるのが、自分の希望で独立する権利は認められている。

「自由」は「自由に生きる」というのも「自由に生きる」というのの意思を尊重していないことの結果である。それは日本社会の文化的要因とも言えるし、利益追求への志向を激化させても利益が上がるという悪循環の結果とも言える。

「SMAPのいない生活なんて考えられない」と知り合いの20代の女性は叫んだ。物心ついたときから彼女はSMAPを母と慕っていた。テレビをきければいつもSMAPがいて、彼女はSMAPとともに成長し、人生の一部となってしまっている。SMAPが解散してしまうのは自分の人生がなくなってしまうようなものなのだ。

「自由に生きる」は幻か。今回の場合は会社が典型的なオーナー企業で、創業者一族の意向が強く、その中でSMAPを育てたマネージャーの確執があり、グループを解散しては商品価値が激減してしまうという事情もある。きわめて特殊な事例だった。

「自由に生きる」という公共のメディアが実はそのような特殊性に耳を向けられていて、40%近い視聴率の中で公開謝罪が行われたという事実が、異例の出来事といえる。それだけで済まされたい。

かたや年収数億とも言われるスターの不自由さ、そして過酷な労働条件で酷使される労働者の限界的状況。それは私たちの社会が今こそ「誰も自由に生きられる」という課題を真正面から取り組むべきだといえることを強く訴求している。(東京工業大学教授) ◆随時掲載します。

店頭に並べられたテレビに映し出された「SMAP」のメンバー（1月18日、東京・新宿のLAB I 新宿東口館）



公開謝罪が映す社会

「自由に生きる」という公共のメディアが実はそのような特殊性に耳を向けられていて、40%近い視聴率の中で公開謝罪が行われたという事実が、異例の出来事といえる。それだけで済まされたい。

「自由に生きる」という公共のメディアが実はそのような特殊性に耳を向けられていて、40%近い視聴率の中で公開謝罪が行われたという事実が、異例の出来事といえる。それだけで済まされたい。

「自由に生きる」という公共のメディアが実はそのような特殊性に耳を向けられていて、40%近い視聴率の中で公開謝罪が行われたという事実が、異例の出来事といえる。それだけで済まされたい。

対話で知る東アジア史

日本、中国、韓国、台湾。それぞれ国・地域を代表し、計16人のアーティストが参加した「ふぞろいなハーモニー」展が、広島市南区の市現代美術館で開かれている。東アジアの歴史と文化をめぐる対話という、高い志を掲げた展覧会だ。

日中韓台の16人が参加

広島「ふぞろいなハーモニー」展

台湾の陳界仁が作品化したのは、冷戦期の秘史でもいっぺき「四方公司」をめぐる記憶と記録だ。1995年、米中央情報局(CIA)が台湾に設立した会社。共産党が政権を握った中国本土に奇襲をかけるための「反共救国軍」の養成を担ったという。



韓国の伝統劇俳優の人生を映像と写真で作品化したサイレン・ウニョン・チョン「私は歌わない」。俳優本人によるライブパフォーマンスもあった。

日本梓では千葉正也、田中功起、高橋裕、米田知子が参加。米田の写真作品は、平和記念式典並みの広島の空気を鮮やかに捉える。政治的判断で美術品の出展がかなわず、説明文が想像するしかない中国人作家劉鼎の「作品」もある。

文化

アルジェリアで通訳をする仕事の採用試験を受けるため、パリから一時帰国のつもりで戻ったのが1976年。

筆記試験の後、フランス語で面接があり、ネーティブの試験官に交わって見覚えのある顔があった。大学の2年先輩の男性で、当時テレビのフランス語講座の講師をしていた。その彼が面接の途中、私の単語力に問題があることを指摘した。試験はパスしなかった。

宮田 卓爾

緑地帯

パリの荷物は友人の一人に頼んで処分してもらった。1カ月して、パリで知り合った暮らラフの師範であるリムさんから小包が届いた。私が何の連絡もしていないパリを離れたことに立腹している言の手紙と一緒に、リムさんが著した本のが入っていた。

春末のイベントックスに書

「移動祝祭日」は、今でも少し苦い味がある。(詩人) 広島市 二おわり

私の移動祝祭日 ⑧

ごした日々をつつた「移動祝祭日」。そのエピソードには、いつか触れた、いかにもリムさんらしい文章があった。無我夢中で打った暮の後の悲しみに似て、夢から覚めたいやぶな見送駅、新潮文庫から

震災5年の日本社会

東京工業大教授
上田 紀行

あの東日本大震災と東京電力福島第1原発事故から5年の節目であった。あの11月13日は、震災や原発事故が甚った出来事として記憶される。そして一人一人の「あの時」の人生に画しつけているからだ。

梅原の親子
私自身、東京での強烈な揺れを感じ、また幸じたのは保高園に通う息子の歳の又半の娘の存在だった。その瞬間に被災地の津波の中継映像が「梅原」の授業録に被災地の映像が載っていた。

梅原の親子
私自身、東京での強烈な揺れを感じ、また幸じたのは保高園に通う息子の歳の又半の娘の存在だった。その瞬間に被災地の津波の中継映像が「梅原」の授業録に被災地の映像が載っていた。

梅原の親子
私自身、東京での強烈な揺れを感じ、また幸じたのは保高園に通う息子の歳の又半の娘の存在だった。その瞬間に被災地の津波の中継映像が「梅原」の授業録に被災地の映像が載っていた。



仮設住宅に帰る子どもら=3月9日、埼玉県宮古市



汚染水を保管するタンクが並ぶ福島第1原発構内=2月15日

過去の構図から脱却を

「あの時」を振り返り、震災5年の節目であった。あの11月13日は、震災や原発事故が甚った出来事として記憶される。そして一人一人の「あの時」の人生に画しつけているからだ。

梅原の親子
私自身、東京での強烈な揺れを感じ、また幸じたのは保高園に通う息子の歳の又半の娘の存在だった。その瞬間に被災地の津波の中継映像が「梅原」の授業録に被災地の映像が載っていた。

梅原の親子
私自身、東京での強烈な揺れを感じ、また幸じたのは保高園に通う息子の歳の又半の娘の存在だった。その瞬間に被災地の津波の中継映像が「梅原」の授業録に被災地の映像が載っていた。

梅原の親子
私自身、東京での強烈な揺れを感じ、また幸じたのは保高園に通う息子の歳の又半の娘の存在だった。その瞬間に被災地の津波の中継映像が「梅原」の授業録に被災地の映像が載っていた。

梅原の親子
私自身、東京での強烈な揺れを感じ、また幸じたのは保高園に通う息子の歳の又半の娘の存在だった。その瞬間に被災地の津波の中継映像が「梅原」の授業録に被災地の映像が載っていた。

見聞録

☆ 雑 群 ☆

「あの時」を振り返り、震災5年の節目であった。あの11月13日は、震災や原発事故が甚った出来事として記憶される。そして一人一人の「あの時」の人生に画しつけているからだ。

「あの時」を振り返り、震災5年の節目であった。あの11月13日は、震災や原発事故が甚った出来事として記憶される。そして一人一人の「あの時」の人生に画しつけているからだ。

形を変えていく紙媒体

「あの時」を振り返り、震災5年の節目であった。あの11月13日は、震災や原発事故が甚った出来事として記憶される。そして一人一人の「あの時」の人生に画しつけているからだ。

ネットと相乗効果期待



ユライカの3月臨時増刊号「仕度のか米業」

「あの時」を振り返り、震災5年の節目であった。あの11月13日は、震災や原発事故が甚った出来事として記憶される。そして一人一人の「あの時」の人生に画しつけているからだ。

文化

未来の世に

「あの時」を振り返り、震災5年の節目であった。あの11月13日は、震災や原発事故が甚った出来事として記憶される。そして一人一人の「あの時」の人生に画しつけているからだ。

月、水、金、土曜日 掲載

文化 | Culture

論考 2016

東京工業大学教授 上田 紀行

公式確認から60年の水俣病

現在進行形

水俣病が公式確認されてから5月1日で60年を迎えた。多くの日本人にとって水俣病は高度経済成長期に起きた過去の公害と捉えられていかもしれない。しかし水俣病は現在進行形の問いとしてある。患者を巡る問題が解決していないという意味において、そして水俣病を生んだ構造を日本社会が脱しているのかという意味においてである。

280人にすぎない。多くの認定申請が却下される中で、政府は1995年、2010年と2度にわたって被害者に一時金と医療費補助等を支給する政治決着を図り、5万人近くが応じたが、今なお認定申請者は2千人を超え、損害賠償を求める訴訟も継続している。60年時を経ながら、なぜ水俣病は解決しないのだろうか。

私は昨秋水俣に数日間滞在し多くの人たちと語り合う機会を持ったが、それは水俣病がまだ生きた問題であることを感じさせる瞬間の連続だった。

「苦海浄土」
水俣におけるチソンの存在は、原発を巡る状況にも限りなく近い。都会のエリートたちの国業会社によって地方に誇りと繁栄がもたらされる。それは幸せな関係だ。ただし事故が起こって破壊的な状況に転化するまでの話だ。その意味で水俣が今後どのような現在進行形を生きていくのかは、日本社会の今後を指し示すものでもあるのだ。

日本の未来指し示す存在

た。

胎児性水俣病の患者さんたちと会った。私の中では高校生時代にユージン・スミス氏の写真と土本典昭監督の映画で見た子どもたちの姿のまま時が止まっていたが、彼らはもう遺體を迎えおじいさんおばあさんになっていた。

持たれるという絶望的な状況に置かれる。そしてチソンへの異議申し立ては「自殺」ともいっべき激烈さを伴わざるをえなかった。

私が水俣に行つて初めて気づいたことがある。全国から水俣に引き寄せられた多くの若者がいたという話だ。彼らは定住し、おじいさんおばあさんになっても患者さんや状況に寄り添い、熱い志をもって力強く水俣を発信している。

患者を支援している女性も最近中学生の娘から「同級生の誰々ちゃんのお姉ちゃんにチソマンと結婚するんだって。すごいね。これで一生安泰だね」と言われたと苦笑していた。チソンと歩むもの、水俣のイメージを損なうものとしての水俣病。いまだに、患者はなるたけひっそりと隠れていてほしいと望む人々もいる。最近患者が認定された際に、「また水俣病の水俣だ」と思われちゃうじゃないか」と苦々しく語った男性は、実は自身も被害者として一時金

「苦海浄土」、苦みみの故の希望を見た。
水俣は日本の現在であり、そして未来である。



水俣病の公式確認から60年を迎え、熊本県水俣市の「乙女塚」で開かれた慰霊祭で黙とうする参加者＝5月1日

最古の技法で切り取る社会

写真家の新井卓さんが真集 MONUMENTS (PGI) で、写真家の登壇とされる木村伊兵衛賞を受賞した。「現代美術の文脈でいつているつもりだったので、写真の質に決まっていた」と語る通り、現代の写真技術とはかけ離れた手法で、社会を切り取っている。

「人が生きてきたまま閉じ込められているようにだった」
時間もコストもかかると、一度に一枚しか撮れず、複製もできない。そんなダゲレオタイプにこだわりの

「人が生きてきたまま閉じ込められているようにだった」
時間もコストもかかると、一度に一枚しか撮れず、複製もできない。そんなダゲレオタイプにこだわりの

写真家・新井卓さん



「つむじを切つてくも美方薬のような魅力が、ダゲレオタイプにはある」と語る新井卓さん。東京都新宿区

物質におびえながら撮影したのは、ヤマユリの花や街をさまよつた、漁師たちのボートレド。分りやすい被災地のイメージを避けたのは「東京と福島の日常をつなげたかったから」だ。
「なぜこんな状況が生まれてしまったのか」。福島で感じた素朴な、しかし切実な疑問への答えを求めて、人類が初めての核実験を成功させた米国のミサイル実験場や、広島、長崎へも足を運んだ。
「フクシマと」チソンの横断線を描くやうに映すか、これがこのテーマだという。原発事故は遠く国で起きたことではなく、この国の日常。ダゲレオタイプには、それを表現する力があると感じている。

フランス風化粧品を回顧 東京で「パピリオ」展

フランス風のパッケージなどで親しまれた化粧品メーカー「パピリオ」の香水瓶などを集めた展覧会「伊東水の瓶など、約120点の資料で明治期からの歴史を回顧する。発起人としてビューティサイエンス学

＝月一回掲載

文化生活部
bunka@kumanichi.co.jp
TEL:096-361-3181 FAX:096-361-3290

文化

論考2016

上田 紀行

オバマ米大統領の広島訪問は感動的な出来事だった。原爆投下からまもなく71年、あまりに長い年月が経過したが、巨大な暴力を行使した国の大統領がその地を訪れることなどあり得ないと思われてきた70年間でもあったことを踏まえ、まさに歴史的な瞬間だった。

基地問題の現実

そして犠牲者に哀悼の意を表し、平和への、核廃絶への深い思いを表出した演説が、はたして現実的な方策を伴っているのかといった批判はあってもせよ、被爆地広島でなされた意味は大きく、それは単なる演説として聞かれるべきものではない。人類の歴史において多兵器という大量破壊兵器が市民の殺りくのため初めて使用され、10万人以上が犠牲になったこの地で発せられた演説として大きな意味を持つ。

しかしその約1週間前に米軍委員を務め、展示内容の策定に携わった。ある雑誌に「戦争の害事件によって、私たちに複雑な思いを生じさせた。事件は米軍による原爆投下から70年たち広島ではやっと歴史が一步前進したが、沖縄の米軍基地問題は今も続いている」という現実を突きつけるだけなら、二つの地へ起きた悲劇の関わりを深く、をいま一度思い起すものでもあった。

県民は「捨て石」

20年以上前、私は沖縄戦終結地の摩文仁の丘に立つ沖縄県平和祈念資料館の移転改築の検討委員を務め、展示内容の策定に携わった。ある雑誌に「戦争の害事件によって、私たちに複雑な思いを生じさせた。事件は米軍による原爆投下から70年たち広島ではやっと歴史が一步前進したが、沖縄の米軍基地問題は今も続いている」という現実を突きつけるだけなら、二つの地へ起きた悲劇の関わりを深く、をいま一度思い起すものでもあった。

オバマ氏の広島訪問

沖縄の悲劇と深い関わり

構想はその後大幅に縮小され、展示をめぐっても、追いつめられた人々が避難したガマ(壕)の再現展示で、県が一方的に、住民を威嚇する日本兵の手から銃を奪うとして、最終的に元に戻すなどさまざまな問題が生じたが、「悲惨な戦争展示シーム」を構想した。

の最後は、悲劇の舞台でありながら美しく広がる海を見渡す全面ガラス張りのお廊に出で、来館者は自己対話する」という私たちのプランは現在の建築に残されている。



④広島市の平和記念公園での演説で「核兵器廃絶を世界への決意を表明するオバマ米大統領(5月24日) ⑤米軍員が逮捕された事件を受け、沖縄県の米軍基地移転地前でメッセージを掲げ抗議する県民(5月20日)



「私が進んでいくことができる未来には、広島で長崎は核戦争の夜明けとしてではなく、道徳的な自覚の始まりとして知られるだろう」というオバマ大統領の演説の結句は、まさに他者を加害者にしたための努力、そして暴力に合理的な理由を与えなごという強い自覚から生まれたのだろう。そのことが今も世界の各地で、そして沖縄をめぐって問われているのである。つづいた・のりゆき(東京工業大学教授)

アートとともに

ここ数年「雨」をモチーフにした作品が数多く制作されている。大気から水の滴が重力によって落下するだけの現象に自分でも思える。生まれ育ったこの地の

高野 理栄子(39) 川柳版画

無意識が作り上げる「雨」

風土が私の体の中に土着性として刻み込まれているように感じている。無意識の状態での性質が映し出された版画として紙に写し取られている。そう考えると、その瞬間の重量な愛すべき体験をしていくと嬉しい。とはいえず、私はこの地を明確なイメージによって表現しようとは思っていない。最初からイメージやメッセージを排除して取り組んで決める。ルールは、天(空)の降る雨をモチーフにする。偶然や無意識による性質が作品を作り上げる動力となっている。この予測不可能な動力は今の作品を手描き、続けるつもり



「Amei」2014年 作家蔵

たかのりよこ 1970年小樽市生まれ。札幌芸術大芸術科・専攻科(当時)美術専攻卒業。同大研究所修了。イラスト版画のほか、モノタイプ、銅版画も手がける。北海道版画協会会員、道展会員、画会連合会員。

関わり合う二つの犠牲

オバマ大統領の広島訪問は感動的な出来事だった。原爆投下から71年、あまりに長い年月が経過したが、巨大な暴力行使した国の大統領がその地を訪れたことなどあり得ないと思われてきた70年間でもあったことを思えば、まさに歴史的な瞬間だった。

【前進と継続

そして犠牲者に哀悼の意を表し、平和への、核廃絶への深い思いを表出した演説が、はたして現実的な方策を伴っているのかといった批判はあるにせよ、被爆地広島でなされた意味は大きく、それは単なる言論として聞かれるべきものではない。人類の歴史において核兵器という大量破壊兵器が市民の殺りくのために初めて使用され、10万人以上が犠牲になったこの地で発せられた言説として大きな意味を持つ。

加害被害の立場を超えて、痛ましい歴史の出来事とともに追悼し、未来志向で平和を築こうという大統領のメッセージは、しかしその約1週間前に米軍属が逮捕された沖縄の女性暴行殺害事件によって、私たちに複雑な思いを生じさせた。事件は「米軍による原爆投下から70年たち広島ではやっとな歴史が、一歩前進したが、沖縄の米軍基地問題

オバマ氏広島訪問と沖縄

論考2016

上田 紀行

は今も続いている」という現実を突きつけるだけであく、二つの地で起きた悲劇の関わりを深さをいま一度

思い起こさせるものでもあった。

【自己と対話

20年以上前、私は沖縄戦終結地の摩文仁の丘に立つ沖縄県平和祈念資料館の移転内容の検討委員を務めた。ある雑誌に「戦争の展示だけではなく、そこから実際に平和が生まれるような平和博物館を作るのが夢だ」と書いたのが発端だ。それが沖縄県庁の目にとまり依頼された。慰霊の日」の記念講演で「なぜ平和運動をしている人たちは常に互いに争い、全然平和じゃないのだろうか」と問いかけたとたんに万雷の拍手を浴び、沖縄戦について素人

同然の30代半ばの若者が委員に任命されてしまったのだ。

【努力と自覚

広島も沖縄の犠牲も米軍が加害者であることは間違いない。だが日本も、米軍をこれだけ多くの犠牲を生みだす加害者としていないための方策を戦争末期であつても講じられた。戦争や暴力の抑止とは、他者を加害者にならないための努力でもある。

沖縄戦は時間稼ぎの戦いだったが、本土決戦を遅らせても既に勝機はなかった。もし沖縄戦の前に日本が降伏していれば、沖縄の犠牲もなかった。沖縄と広島は犠牲は深くつながりあっている。

歴史動くも現実突きつけ



広島市の平和記念公園での演説で「核兵器なき世界」への決意を表明するオバマ大統領
=5月27日

構想はその後大幅に縮小され、展示をめぐっても追いつめられた人々が避難したガマ(壕)の再現展示で、県が一方的に、住民を威嚇する日本兵の手から銃を外そうとし、最終的に元に戻すなどさまざまな問題が生じたが、「悲惨な戦争展示の最後は、悲劇の舞台でありながら美しく広がる海を見渡す全面ガラス張りの回廊に出て、来館者は自己と対話する」という私たちのプランは現在の建築に残されている。

【随時掲載します。

「私が選ぶことができる未来には」広島と長崎は核戦争の夜明けとしてではなく、道徳的な自覚の始まりとして知られるだろう」というオバマ大統領の演説の結尾は、まさに他者を加害者にならないための努力、そして暴力に合理的な理由を与えないという強い自覚から生まれたのだろ各地で、そして沖縄をめぐって問われているのである。(東京工業大学教授)

文化

誰にも似ていない自分を堂々と表現する。これが信条だ。感受性も価値観も人それぞれ、型を押しつける世間には徹底抗戦です。ライター「林永子さん」は、攻撃的なエッセーを集めた初の著書「女の解体」(サイゾー)に結婚や出産を回避し、自由を愛する思いのたけをぶちまけた。選難なエネルギーが渦巻く東京日々保で育った。ホテルや風



ライター

林 永子さん

旬英気鋭

反発恐れず自分語る

「自意識過剰とちやかされませんが、自意識をきちんと語るのことは大事なこと」
—東京・汐留の共同通信社

俗店が並び、路上で客を引く女性も、外国人が集住し、右翼の街宣も日常茶飯だ。性暴力、差別と貧困が普通にこちやっこある街で複雑な大人の事情に融れ人生いろいろ、職業にも出自にも貴賤はないと気づいた。美術大学で映像文化を学び、映像批評などを執筆してきた。2年分のウェブ連載を全面改稿した新著は、「超個人的ジェンダー論」を掲げた新境地だ。女性の多様な生き方を認めず、「産む性」としか見ない男性の無理解に憤り、「母になる幸せ」を無神経に口にする女性にも苦言を呈した。

反発を恐れず自分を押し出す

す、「おどこ気」あふれる語り口が身の上だ。連載中から「自意識過剰」などと批判も受けたそうだが、「主語を明確に『私はこう思う』と語るのことは大事なこと。反感を覚えた読者が『自分なりの正解』を見つけてくれたら本望です。共感が欲しいわけじゃない」ときっぱり。やはり男前だ。とはいえ執筆を通じ、強い言葉と態度で抑圧していた弱い自分も見えてきたという。「例えば男女平等を叫びつつ、内心では男らしくありたい自分がいる。男に頼るなど言いながら、男に甘えたくもある。矛盾だらけの自分をどう受け入れ、人生の後半戦に向かえばいいのか。今はかなり心とない気分ですが、そんな試行錯誤から次の執筆テーマが浮かぶのかも」

論考

2016

上田 紀行

Bangladesh のテロ 脱宗教化と過激思想傾斜の逆説

多くが富裕層出身だったことだ。与党や外資系企業の幹部の息子で、エリート高校の同級生やマレーシアの大学に留学した者もいる。

なればテロリストになるのだろうか。エリート校の学生たちはイスラム教の宗教教育を受けていないからだと、タッカ市民のコメントがあった。実行犯の父の外資系企業幹部も自身が信仰熱心ではないことを認めている。英語教育のエリート高校では、伝統的な宗教教育を受けていない若者は過激思想で

教育よりも、グローバル社会を向いた教育が行われる。日本における宗教教育の不在が過激な宗教思想への傾斜をもたらすという説論がここにはある。伝統的な宗教教育は神への信仰や共同体の仲間への善行といった徳が強調される機微なものである。「聖戦」と訳されることのできる「シハード」という言葉も「自分の心の随者」ともいう。内面的な意味が重視される。しかし宗教教育を受けていない若者は過激思想で

暴力に「報復」しない意志を



免疫がな「異教徒に対する聖戦」といった攻撃的解釈にやすやすと洗脳されてしまう。

オウム真理教事件もそうだった。高学歴の若者たちが日帝世界から姿を消してカルトに身を投じてテロを起す。オウムの若者たちが発した「善は単なる風景だった」という言葉が忘れたい。人生の意味を求めた若者の葛藤に、伝統的仏教教育の言葉はまったく届いていなかった。それゆえ若者たちは「マア」というチベット仏教用語を「悪行を積む者を殺すことにより功徳を積む」とこじつけて、仏教とは似ても似つかぬ教義に染まってしまった。過激な宗教思想の若者への浸透は、実は社会の脱宗教化と深く関連している。

数年前から欧州の多くの若者たちが過激派組織「イスラム国」(IS)を目指して失踪しているが、それはインターネットの影響も大きい。家族や共同体のガードを崩壊して、一人一人の若者はネットに捕捉されていく。ハンマニッシュの富裕官ハニム・ムハメド・ムハメド

その上で「国民総生産」にならって、「世界総暴力量」の大きな指標を考えたい。この地球上で「総暴力量」が増大すれば、それは必ず私たちが及んでいく。テロに対処しつつ、世界の総暴力量を減らしていくことを常に意識しないといけない。それは「報復」を決してしないという強い意志であり、それを支える健全な宗教意識の再構築であろう。世界の暴力量を減らし、幸福を増やしていくには、必ずしもタッカの犠牲者の方々が目指していたものでもあつたらう。私たちがその遺志を継いで進んでいかなければいけない。

(東京工業大教授)

タッカは今よりも比較的安全な都市であった。しかしテロは今や世界のどこでも起りつつある。実例ばかりでも、米フロリダ州でも大規模なテロが起きた。4年後に五輪を控える私たちが日本人も、対岸の問題としてではなく、自分の事としてテロを考える時期に来ている。

今回驚かされたのは実行犯の

文化

しなの 歴史再見

県立歴史館総合情報課学芸員

林 誠

草津軽便鉄道沿線鳥瞰図

鉄道で結ばれた証しを今に



金子常光「草津軽便鉄道沿線鳥瞰図」(部分) 大正時代、絹本着色、59.6×217.0cm(草軽交通株式会社蔵)

の一部分図である。浅間山をはじめ吾妻山、白根山などの山々に加え、軽井沢、草津温泉など上信国境に跨るおなじみの観光地が色鮮やかに描かれている。また、橋梁が草津まで延びる

点線となり、ハニムも未開通のころ。

実はここには描かれているのは、「草津軽便鉄道」(後の草津電気鉄道)の開通当初の姿である。同線は、15年の新軽井沢・小瀬間を皮切りに延伸し、26年には新軽井沢―草津温泉間55.5kmが全通している。両駅間は、片道75分時間を要したところ。

制作年は不明だが、推定する手掛かりは作品の中にある。例えば、本作に描かれている軽井沢―橋本間は、19年に開業し、24年に電化、同年には「草津電気鉄道」と社名を変更していること。「地蔵川」(27年に北軽井沢と改称)等の駅名、画中では未開通の橋本―草津温泉間の全通が26年であること等である。そして、本作をもとにしたパンフレットが23年に発行されていることから、19〜23年の制作と

作者の金子常光は、鳥瞰図を専門とする画家。当初、この分野の先駆者存在した吉田初三郎の工房に属したが、23年に独立して「日本を所図発行」の創立に参加した。以後、各地の観光絵図を手かけ、吉田で人気を二分した。長野県関係の作品も多い。

なお、本作の描写には、後年の金子作品に特有の、緻密な山肌の描写や淡めの色使いは感じられず、より明るめの色彩や単純化した形態に特徴がある。こうした点からも、大正時代後半の制作と判断されるのである。

◆ ◆ ◆

本作品は、県立歴史館 千曲市 10月28日開催中の企画展「夢のせせがれ信州の鉄道」で展示されている。問い合わせは同館総合情報課(0266・274・009)へ。

軽井沢と草津温泉。いずれもわが国を代表する避暑地・観光地だが、この間が昭和30年代半ばまで鉄道で結ばれていたことを存じたいか。その歴史は意外に古く、全通したのは1926(大正15)年のことであった。今回紹介する作品は、この区間を運行していた鉄道会社が制作したパンフレットの「原画」である。

作品は全幅2段に及ぶ長大な巻子で、掲載図版は左側約半分

可視化される「つながり」

上田 紀行

論考2016 「ポケモンGO」の風景

7月20日の午後、勤務先
の大学のキャンパスで気味
の悪い風景が広がってい
た。

ふだんは単なる通り道で
しかない広場に多くの人が
つぎつぎと集まっている。何かの集
会が行われているわけでも
ない、誰かが演説をしている
わけでもない。

しかし学生たちは何かに
吸い寄せられるように集ま
っていた。そしてキョロキ
ョロしながら歩き回り、明
らかに挙動不審だった。私
の目には見えない、しかし
彼の目には見えるものが
そこにはいて、彼を操って
いる。「どこから来よう
出したソングのようだ」と
同僚がつぶやいた。それが
スマートフォン向けゲーム
「ポケモンGO」のサー
ビス開始日の風景だ
った。

20年前の不気味な記憶を思
い起して、大学の会
議がその日は何か妙だっ
た。何かがある…。テー
ブルを囲んだ十数人の教員以
外の何かがその部屋に
ような気がして落ち着かな
かった。

そこに「いた」のは「た
まごっち」だった。2人の
教員がエッセイを書くため
に発売直後の携帯ゲームた
まごっちを雑誌編集者に持
たされていったのだ。彼らは
会議で発言しながらも、机
の下でエサやりなどの世話
を続けていた。

一緒にいながら、意識は
別のものに奪われている。
それは私たちの心にさわか
わとした不安を与える。自
分と親しい人であればなお
さらだ。他のことに奪われ
た恋人が、気もそらさず生
返事になって、不安になり
ない人はいない。

もちろんつまらない会議
の最中に別のことを夢想し
ているというところはそれま
でもまああったことだが、
それがこの時、たまごっち
という明確な対象物になっ
たのだ。

それから20年、携帯電話
やスマホとの共生による
「つながり」が他のもの
とつながっているという
感覚はもはや当たり前にな
った。私は講義の際にスマ
ホやパソコンの使用を禁止
しているが、黙認している
教員や、むしろ奨励してい
る教員もいて、そこでは学
生は講義中でもツイッター
でつぶやき、メールやLINE
（ライン）で教室外の
人と会話している。

目の前の知人が私と会話
しながら平気でスマホをい
じる。電車の中ひびひ
と音がスマホを通して別空
間に生息している。よくよ
く考えてみれば実に奇妙な
空間だが、私たちは慣れつ
つある。

奇妙な空間
「つながり」が他のもの
とつながっているという
感覚はもはや当たり前にな
った。私は講義の際にスマ
ホやパソコンの使用を禁止
しているが、黙認している
教員や、むしろ奨励してい
る教員もいて、そこでは学
生は講義中でもツイッター
でつぶやき、メールやLINE
（ライン）で教室外の
人と会話している。

目の前の知人が私と会話
しながら平気でスマホをい
じる。電車の中ひびひ
と音がスマホを通して別空
間に生息している。よくよ
く考えてみれば実に奇妙な
空間だが、私たちは慣れつ
つある。

見えないつながりも実は
高度に巧妙に構築されてい
る。それはネットビジネス
においても政治においても
既に顕著だ。ポケモンGO
のもたらした風景は一見不
気味に見えるが、それはよ
りいっそう不気味な「見え
ないつながり」をあぶり出
すものなのかもしれない。
つながりを生かすのか、
知らぬうちに操作され支配
されるのか。今こそ鋭敏な
感覚を持つべき時代。魂を
奪われたソングにならない
ために。

(東京工業大学教授)

東京都中央区の西村
田菜穂子の「十二支」
である。指田は1908
の美術家で、いわば「
絵画化」を手掛けた
画家だ。百科事典のよ
うな言葉に因襲するも古
まな複製のイメージを
面に凝縮して描写する
例えは「夢」をテ
ー品に描かれているのは
夢とされる「草子」
から、夢を食う「ハク
」まで、実に多種多
記号。見る者にとって
年画のような華やかな
ベットの装飾画のよう
わいながら、絵画に抽
意味を読み解く楽し
画である。

今こそ鋭敏な感覚持つべき

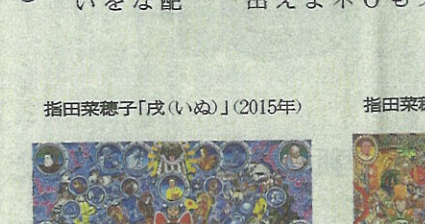


スマートフォンの画面に現れた「ポケモンGO」のピカチュウ＝東京都港区

ポケモンGOがもたらした
風景は「人々の見えない
つながり」を見えるようにし
てしまった。しかし
よくよく考えてみるとそ
の不気味な風景は実は健全
なものなのかもしれない。
ポケモンが出現する店に入
々は殺到するだろう。それ
はネット上のつながりや
人心の操作の「見える」化
でもある。

見えないつながりも実は
高度に巧妙に構築されてい
る。それはネットビジネス
においても政治においても
既に顕著だ。ポケモンGO
のもたらした風景は一見不
気味に見えるが、それはよ
りいっそう不気味な「見え
ないつながり」をあぶり出
すものなのかもしれない。
つながりを生かすのか、
知らぬうちに操作され支配
されるのか。今こそ鋭敏な
感覚を持つべき時代。魂を
奪われたソングにならない
ために。

(東京工業大学教授)



指田菜穂子「戌(いぬ)」(2015年)

指田菜穂子「申(さる)」(2015年)

美術作品への介入に危機感

文化

美術作品を巡り、警察の介入や美術館
側からの改変要請が相次いでいるとし
て、国際美術評論家連盟日本支部が「美
術と表現の自由」と題するシンポジウム
を東京都内で開いた。パネリストからは
近年の事例が報告され「後退戦を強い
られている」と危惧する声も上がった。

上智大学教授の林道郎は、女性漫画家
うくでなし子(第三者)に提供した女性器の
立体的データが「わいせつ」とされた刑
事事件の事例を報告。作品が「芸術か、
わいせつか」という論争について「芸術
ならわいせつではない」という問題では
ない。表現の自由はジャンルにかかわら
ず確保されるべきものだ」と指摘。「ま

表現の自由巡りシンポ

ずは表現の機会を確保し、可能な限
り公権力の介入を許さないことが大切
だ」と強調した。

東京都現代美術館を巡っては昨年、文
部科学省への批判を含む田誠と家族の
共同作品を撤去するよう要請されたこ
と



昨年、東京都現代美術館で展示された、田誠さんと家族の共同作品「楳文(けいぶん)」＝東京都江東区



国際美術評論家連盟日本支部

「全てのジャンルで確保を」「公立の組織構造に問題

を会田がツイッターの投稿で公表し、美
術界で大問題に。また、同美術館で今年
開催されたグループ展「キセイ・セイキ」
では、美術館側から複数の作家に対し
ては、美術館側から複数の作家に対し
ての改変要請があり、作家が同美術館
での展示を断念したことが明らかになっ
ている。

いすれのケースでも美術館側からの明
確な説明はなく、事例報告をした油縄原
立芸術大准教授の土屋誠一は「どのよう
な意思決定プロセスがあったのかは知ら
ないが、組織として機能不全を起してい

いるのではないかと同美術館
元栃木県立美術館学芸課長の小
「美術館の学芸員の身分が行政
よりも圧倒的に低いので、現場
通らない」として、公立美術館
造に問題があると指摘した。

見聞

福

今回の五輪は美にブラジルらしい、リオデジャネイロらしい五輪だった。

開幕前は競技場など施設の建設の遅れがクローズアップされ、本当に問題なく開催できるのかと危ぶまれた。しかし現地の人たちは「ブラジルはそんなもんだよ」と慌てていなかったし、実際何とが間に合った。

選手村の水回りの不調を福原愛選手が自ら修理したり、多くの競技で観客席がガラガラだったり、マラソンコースに観客が乱入したり、さまざまな運営上の問題はあった。だが心配されたテロも起こらず、終わってみれば大成功だった。

■カーニバル

開会式からリオらしさが全開だった。各国選手団を先導するのは植木鉢や花で装飾されたカラフルな三輪自動車。こぎ手の満面の笑みもあいまって、それだけで祝祭気分を盛り上げた。選手たちはヌジラム中央の直線を進んだが、それは明らかにリオのカーニバルをイメージしていた。

カーニバルのパレードは、12のチームが2日に分かれて徹夜で行われる。各チームはテーマを設定し、数千人に及

発信すべきメッセージとは

ぶ踊り手や打楽器隊が、精巧に作られた山車と共に、全長700mの直線を1時間以上かけて行進する。日本ではあまり知られていないが、テーマ、音楽性、踊り、衣装などの項目で厳密な採点を受ける「コンテスト」だ。最下位になれば下部リーグへ降格してしまう。

でも踊っている人たちは実に楽しそうだ。私たちがイメージする若い美形の「サンバダンサー」は一握りで、多くはテーマに応じたかぶり物や衣装をまとった群舞を担当し、高齢の人たちもたくさん参加する。五輪の開会式で行進で、誘導役として、矢印が描かれた服を着た人たちの、楽しみながらゆるい踊りはまさにその群舞を思い起こさせるものだった。

■人間の尊重

シビアな採点競技であつても高齢者も参加し、みんな楽しくサンバを踊るカーニバルのように、五輪という最大の国家行事であつても準備はギリギリになり、それでも大丈夫と樂觀し、多少のほころび

はいいじゃないかと許す。シエサイトを見てみると、大会ビジョンは「スポーツには世界と未来を変える力がある」であり、「全員が自己責任で、多様性と調和」「未来への継承」が三つの基本コンセプトだ。しかしこれまで人間のあり方に、リオ五輪のメッセージを見たように思っ

■付け足し

さて4年後は東京五輪。私たち日本人は世界に向かって何を表現するのか。「震災からの復興」という招致時に強調されたテーマを覚えている人は少ないように見える。そ

エフサイトをみると、大会ビジョンは「スポーツには世界と未来を変える力がある」であり、「全員が自己責任で、多様性と調和」「未来への継承」が三つの基本コンセプトだ。しかしこれまで人間のあり方に、リオ五輪のメッセージを見たように思っ

メントで日本人として何を表現すべきかを考えていた人もまた少なかっただろう。東京五輪は国立競技場問題で、そしてエンブレム問題で、大揺れとなった。開催費用も大幅に膨らむ見通しで、私たちの意識は、テーマどころではなくなっているのかもしれない。このままでは開会式の演出も誰かがいつの間にか密かに決めて、私たちはテレビ中継を見て初めてテーマを知ることになってもおかしくない。イベントを行うことや建築物を建てることに先に立ち、その後、スケジュールが決まり、テーマやメッセージは後から付け足しのようにしていく。それでいいのだろうか。



リオデジャネイロ五輪開会式で入場行進するブラジル選手団

紹介する。ゲームキャクサーのリオオに扮した安倍晋三首相は大うけだったが、その後の完璧に制御されたグラフィクスや直方体のフレームとのダンスは、日本の誇るべきテクノロジーの姿というよりは、その精緻なシステムに支配されている人間の苦悩のようにも見え、何か哀しきを感じさせた。

東京五輪で私たち日本人の真に深いメッセージを発信できるのか。リオからの大きな宿題だ。(東京工業大学教授)

作家の宮本輝さん

作家の宮本輝さんが自らの父親と自分自身を題材にした長編小説「流転の海」は、第9部「長流の畔」(新潮社)が刊行され、完結まで1巻を残すのみとなった。69歳の宮本さんが、34歳から手掛けてきたライフワーク。「これだけ長い小説をずっと楽しみに読んでくれていた人がいる。いつか私も早く終わりたい」と原稿用紙に向かう日々だ。

「流転の海」の主人公は、宮本さんの父親をモデルにした明治生まれの松坂熊吾。粗野でわがままで、商才にだけ、ときに理知的。その熊吾が終戦直後、50歳で息子の伸仁を授かる場面から始まる物語だったが「34歳で50歳の男を書いたのは無理があった。精神的にも肉体的にも分からないことがあまりに多かった」。第1部を書き終えていったん作品から遠ざかり、第2部以降は時間をかけて、じっくり執筆を続けた。

「長流の畔」の舞台は1963年

長編小説「流転の海」最終章へ



「長流の畔」

人のために生きた父

していた父親をそのままという。』あるとき『ぼつん』と運が切れた。突然、何もかも運から見放されて、ちくはくになったと、しみじみ語る。戦前の熊吾は実業家として飛ぶ鳥を落とす勢いだっただが、戦後は事業



「極兵衛に書くもたてではないと思っただけに、じっくり構え書きました」と語る宮本輝さん(長野県群馬市)

の大阪。熊吾は60歳で、伸仁はようやく高校生になった。社長を務める中古車販売会社の運転資金を社長に横領され、熊吾は金策に奔走する。糖尿病にも悩まされ、さらには熊吾の不貞に端を発した妻房江の自殺未遂が追い打ちをかける。

熊吾の窮余の姿は、青年時代に接

を立ち上げては、手を広げすぎて失敗するということを繰り返す。運を息子に分け与え、自分一人、時代の流れからはじき出されてしまったようだ。

最終巻では父の死を熊吾に重ねて描く。「大將のおかげで今日がある」と、10年、20年たつてから手紙が来るのがあった。人のために生きた人。書いていて、あらためてそう思いました」

「流転の海」に向かう時には、普段あまり思いつかない父親との日々が頭に浮かぶ。小説なので事実をそのまま書くわけではなく、身内ゆえ、書くべきか否か、迷うことも多い。「死んでから、小説で付き合い合っている時間の方が長い。早く書き終えたいですよ。本当にあのおやじとはちよつと離れたい」と苦笑する。

第9部の題名は「野の音」とした。「あの最終巻でこの大団円に振りかぶるのも大団円といえるのかもしれない。これから流れてきたかたから流れていく。分らないようにどこかへ消えていく……。そんなふうに終えたい」。心静かに、ライフワークの総仕上げに向かっている。

憧れの喪失と教育の役割

大隅良典・東京工業大薬学教授がノーベル医学・生理学賞を受賞した。同じ大学に勤務する者として大変うれしく、また日本人研究者の3年連続受賞を心から喜びたい。

しかし記者会見で大隅薬学教授は、喜びの一方で近年の科学研究と支援の在り方に警鐘を鳴らした。「役に立つ」という言葉が社会をダメにしていくと思つたと語り、社会が将来を担うべき、長期的に科学をサポートする姿勢を持つてほしいと訴えた。

▽首都圏出身

ノーベル賞受賞をもたらした研究はどれも今から20年、30年も前のものだ。当時は大卒における基礎研究を支援する態勢があったが、今や「競争的資金」という名の下で「すぐに役に立つ」研究が優先される。その一方で大隅薬学教授は精力的に批判した。それは今、日本で基礎研究に携わる研究者の多くが感じていることである。3年連続でノーベル賞受賞者が誕生したからといって、現状を単純に喜べるものではない。

「私自身も別の切り口から大きな危機を抱いている。それはノーベル賞受賞者になぜか東京出身者が非常に少ないという事実である。」

ノーベル賞の陰に

論考2016

上田 紀行

自然科学3賞の受賞者22人のうち、卒業大学としては東京大5人、東工大1人だが、全員が高校までの教育を地方で受けた方々だ。

利根川進氏だけが東京で教育を受けているが、中学2年からであり、進学先は京都大である。首都圏(東京、神奈川、埼玉、千葉)にまで範囲を広げても、神奈川2人、埼玉1人しかおらず、都道府県別人口比には見合っていない。つまり東京出身で東京の大学に行った人からはノーベル賞受賞者は出でず、首都圏出身者でも非常に少ないといっている。

▽「地域大学」

それを問題だと考へるのは、昨今の東京の大学入学者における首都圏出身者が劇的に増加しているからである。この30年間の推移をみると、東大は100000年

の47%から2016年は55%になった。東工大は69%から75%、早稲田大は52%から74%、慶応大は56%から73%とこの3大学の合計で首都圏の地域大学「になりつつある。私自身東工大で教えるながら、この大学が首都圏の進学校出身者の大学になつていくことをむしろと感じている。

息の長い視野を持つて

こうした傾向は地方出身者が地元を離れ、首都圏へと軌を一にしている。大都市に子どもを送り出す経済的余裕がない家が増えていくことや、私立の中高一貫校が首都圏に集中し、受験指導に関する大都市圏と地方の格差を拡大していることも背景にあるだろう。このように全国の大学が

▽創造性の源

それは「憧れの喪失」ともいえる。かつて地方から東京を目指す者たちは新天地への大きな憧れがあった。未知の世界がより広く自由な世界…。都会の実

際がどうかはともかく、少なくともこうした憧れが大移動を支え、その中には確実に「真理の探究」へ向かう大きな種が宿っていた。東京で生まれ育った人間には東京への憧れはない。カネとモノが集結する首都で育った若者たちはよりスマートにもつかぬ道を選択していくだろう。だが若者にとって境界を越える体験は、自らを懐し新たに再構築する、人生の創造性の源でもある。

海外に出る意欲が低下し、国内でも自分の地域から出ないといふことでは、社会を支える根源的な活力である個々人のインスピレーションが枯渇するだろう。日本の教育にタイムリミットを取り戻さなければならぬ。未知のものへの自由への、真理の探究への憧れを取り戻さなければならぬ。そのためには生まれ育った地を離れて学ぼうとする若者たちへの支援が必要だ。

基礎研究をおもひかたしては科学の発展はなく、社会の基礎となるべき教育をないがしろにしては私たちの未来はない。短期的な利得をこらわらず、真理への憧れを育む息の長い視野を持つこと。大隅薬学教授のメッセージは私たちの社会の根本そのものを深く問いかけている。(東京工業大教授)



ノーベル医学・生理学賞の受賞が決まり記者会見する大隅良典・東京工業大薬学教授
—東京都目黒区の東京工業大

地域大学になり、地域ごとに自開したサイクルをめぐらして回すような状況になりつつある。これらは真に創造的な社会づくりにもつけない。

長引く出版不況の中、また印刷会社や製本会社が姿を消したと語るのは、10000年に創業し、その後このエリアに本社を置く紙の専門商社「竹尾」社長の竹尾綱(し)。新潮文庫、平凡社の世界大百科事典など数多くの本に紙を提供し業績を伸ばしてきたが、「出版業界の減産傾向に伴い、紙の需要も低迷してきている」。

出版クライシス 激変する売り場

□5□

書物の点数や関連企業の集積地。「世界一の本の街」と称される東京・神田神保町を中心とするエリア。新刊書店や古書店、出版社、取次会社、製本、印刷会社が軒を連ねる本の一大拠点だ。だが、この街も変化を避けられない。作り手たちが街を離れ始めていたのだ。半面、書店の読み手が集まる観光地としての側面が強まっている。

書店街としての歴史は案外、古くない。明治以降に学校ができ始め、専門書や安価な古書の需要が高まったことが契機となった。戦後は新たな知識を求め、本の発売を徹夜で待つ長蛇の列が現れるほど隆盛を誇った。



新刊書店古書店が並び、観光客が行き交う東京・神田神保町

本の街の観光地化

書店不毛の地と呼ばれたこの地を選んだ創業者は、先見の明があったと頷く。「この街には、六法全書で知られる出版社「有斐閣」社長の江草貞治(47)。創業はあ

1984年創業の出版社「八木書店」も長年このエリアを支えてきた。多くの書店に本を取り次ぎ、貴重な古書を集め、出版社の過剰在庫を買い取り、削安で販売する。会長の八木壮一(78)は「全国的には書店数が減っているが、この古書店は今も増えている」と明かす。「古書店

の多様性が人々を引きつける。一時はデジタル化で紙の本がなくなると言われたが、あの偉大な「一方、街の活気が失われた」と語る関係者もいる。業界紙

「出版ニュース」代表の清田なぐさ(78)は「80年代までは神田村」と呼ばれるほど取次会社が集まり、書店もかき集り、自販機やオートバイを買いにきていた。でも街の再開と捉えてい

2000年、新たな紙文化の創造を目指す。本社の傍らに2700種類の紙を見て触れる総合情報センター「見本帖本店」をオープン。街の観光地化に「投資している」。「出版のプロの街から、消費者の街に変わった」。有斐閣の江草社長が見る。悲観はしていない。街の新たな魅力と捉えてい

論考 2016 上田紀行

世論調査で「大統領にふさわしくない」という回答が双方ともに半数を超えるという「嫌われ者」同士の戦い、非難合戦に終始し、見苦しく冗位を欠いた討論…。史上最低の大統領選「はそれでも最後はより穏便なクリントン氏が勝利する」と信じられていた。しかし大番狂わせの驚きが最後に待ち構えていた。

二つの過小評価

そのショックは私たちの二つの過小評価を思い知らせた。
ひとつはクリントン氏への嫌悪に対する過小評価だ。聡明で忍耐強かった8年間のフーラストレーディ時代から15年がたち、政治的経緯と権力を奪ったクリントン氏は、引き換えに「国民から遊離した既得権

益者」となっていた。世界最大級の投資銀行ゴールドマンサックスからなせるトランプの大統領としての約1千万円もの大金を受け取ったのかと聞かれ、だまって彼らにくれたんだから」とテレビ番組で答えた姿は、多くの米国人に衝撃を与えた。さらにメール問題での三転三転する釈明で「うそつき」のレッテルも貼られることになる。せっかくの「初の女性大統領への期待も」既得権益にまみれたうそつき警財政政治家」というイメージにかき消されてしまった。

米社会の分断はどこへ



驚愕のトランプ氏勝利

氏は当初まったくの泡沫候補扱いだった。そして「不法移民の」メキシコ人は「イブ犯だ」「イスラム教徒を入国禁止させよ」といった過激な発言を繰り返す選挙キャンペーンも、これまでの米国ならば政治家としては「完全アウト」だったはずだ。しかしその男がまぎれもなく米大統領に就任する。

それが米国の現実だ。中南米からの不法移民に職を奪われた低所得層の白人労働者たちが真っ先にトランプ氏を支持し、さらに「世界を支援することで米国は利益を逸失している」と考える層にも支持が広がっていった。

この大統領選のテーマは「壁」だったかもしれない。トランプ氏はメキシコ国境に壁を作り、米国の労働者を守れと主張した。対するクリントン氏は米国内で既に壁の中に住んでいる富裕層の住人だとみなされ、落選した。そこにはこれまで

米国を中心として進められてきた、世界の壁をなくしていくというグローバルイズムの限界が露呈しているようにも見える。

グローバルイズムと新自由主義経済の中でひとり勝ちをしようと思われた米国内部では格差による深刻な壁が生じていた。しかしその壁の解消のために国内外の間の強固な壁を築き、トランプ氏の「孤立主義」「保護主義」ははたして奏功するのだろうか。

大統領選の勝者は誰なのか。1人目はもちろんトランプ氏とその支持者たちだ。彼らは陳外された自らの立場を強烈にアピールし、グローバルイズムを支える「開かれた米国」という理念に強烈な異議を申し立てることに成功した。

2人目は、民主主義推進で予想外の健闘をみせたサンダース氏とその支持者だ。新自由主義の吹き荒れる米国内社会において、「社会主義者」を自称する人物がここまで支持を集め、抑圧を感じている若者たちの熱狂的な支持を掲げ起したことは画期的だった。

も米国内の絶望的な格差と陳外感を訴える。しかしサンダース氏が国内の分配の公平性を訴えたのに対し、トランプ氏は「米国民の富を奪う」移民や、日本をはじめとする外国に原因を求め、排外的な保護主義を主張する。

危うい社会実験

「アメリカンドリーム」の復活を」とトランプ氏は勝利宣言。高らかに述べたが、今回の大統領選が明らかにしたのは、「アメリカ」なやり方は米国内にも世界にも多くの亀裂と分断を生みだし、グローバルスタンダードたりえなかったという皮肉な現実だった。

新たな壁を作るというトランプ新大統領の政策が米経済の好転をもたらすとは思えず、化けの皮がはがれるのは時間の問題だろう。そのとき米国内社会の分断はどのような方向に進むのか、新たな世界秩序はいかに構築されるのか。大番狂わせの大統領選は世界規模の危うい社会実験の始まりでもある。

◆(東京工業大学教授) 随時掲載します

木工のイメージ覆す造形

美術散歩



丸太の固まりから削り出された繊細な造形が、木工のイメージを覆す。山口市の工房を構える竹部徳實を

で内部をくり抜き、年輪や節の風合いを透過去で見せるランプシェードは幻想的な空間を生む。「零れ日」は「零れ日」に「写真手前」と「零れ日 つよい」を「同奥」は、古代中国の五行思想からイメージした形状という。曲線に沿って流れるような年輪が悠々を感じさせる。

山口県立大と同大学院で工業デザインを学んだ後、木工の道へ。油分が多く透かすと赤みがある黒木のアカマツを生かした創作を続ける。1987年、兵庫県生まれ。(森田裕美)

広島市中区出身のプリマバレリーナ森下洋子(手前)が出演した2015年上演の「くるみ割り人形」。

「くるみ割り人形」は、12月、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日、1月1日、2日、3日、4日、5日、6日、7日、8日、9日、10日、11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日、2月1日、2日、3日、4日、5日、6日、7日、8日、9日、10日、11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日、3月1日、2日、3日、4日、5日、6日、7日、8日、9日、10日、11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日、4月1日、2日、3日、4日、5日、6日、7日、8日、9日、10日、11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日、5月1日、2日、3日、4日、5日、6日、7日、8日、9日、10日、11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日、6月1日、2日、3日、4日、5日、6日、7日、8日、9日、10日、11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日、7月1日、2日、3日、4日、5日、6日、7日、8日、9日、10日、11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日、8月1日、2日、3日、4日、5日、6日、7日、8日、9日、10日、11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日、9月1日、2日、3日、4日、5日、6日、7日、8日、9日、10日、11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日、10月1日、2日、3日、4日、5日、6日、7日、8日、9日、10日、11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日、11月1日、2日、3日、4日、5日、6日、7日、8日、9日、10日、11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日、12月1日、2日、3日、4日、5日、6日、7日、8日、9日、10日、11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日

文化

今年10月、アートギャラリーミヤウチは、約200点にも上る絵画作品の寄贈を受けた。1980年代から広島市の繁華街「なめくじ横丁」にあった画廊「真」のオーナーで、文筆家でもあった志條みほ(1937-2013年)の愛蔵品だ。

志條さんの遺言により、「遺族は「果コレクション」として一括で寄贈できる場所を探しておられた。だが条件がなかなか合わず、

3年が経過。そんなとき仲介者を通して当ギャラリーに相談があり、受け入れを決めた。

戦後の広島で、若い画家たちを育てるにも力を注いだ志條さんのコレクション。貴重な歴史的資料だ。私自身、「果」の成り立ちも志條さんの人となりについて関係者から話を聞くうち、どんな人風味が湧いた。

実際に作品と対面した時、美に癒やされたというよりは、少し不穏な印象があった。でも、着きつけられるものがあった。スーサン・ソングが「本物の芸術はわれわれの神経を不安にする力を持っていない」といっているが、まさにそれを想起させるような、た。どんな基準で収集されたのか、背景を詳しく知りたくなった。

志條さんは、中国新聞紙上で第1次原爆文学論争の口火を切った人物としても知られる。原爆を題材とした絵や文章ばかりひねり上げたことを安易だと批判した。実際、寄贈されたコレクションには原爆を直接題材にした作品は見当たらない。そんな彼女の思いを取っ掛かりに、ヒロシマの表現を考えていきたい。

▼宮本常一・あるくみるまの会読書会 16日午後6時、広島市西区民文化センター

一。テキストは網野善彦著「古文書返却の旅」(中公新書)。参加費500円。事務局の藤川昌寛さん☎082(239)1819。

ぶんくら

メディア

山日発 デジタル さんにちEyeから

やまなしの「なぜ」 富士みちの石、正体は？

富士吉田市上吉田地区を南北に走る国道139号(富士みち)。走っていると、道路の真ん中に円形の模様が連なっていることに気付く。車を降りて観察すると、なにやら大きな石が埋め込まれているようだ。あるのはこの道路の一区間だけ。一体、何のために…。調べてみると、やはり謎は富士山に由来するものだった。

(清水一士)



路上に円形の石が見られるのは、国道139号の金鳥居一上宿交差点の間。道路を管理する山梨県富士・東部建設事務所吉田支所によると、石の大きさは直径1.5mで、厚さは15cmあるそうだ。20m間隔で、計53カ所に設置してある。つまり20×53=1060m…約1kmにわたって続いていることになる。



では、何のために？ 担当者に疑問をぶつくと、答えは明快だった。「吉田の火祭りの時に、たいまつを置く台座ですよ」

吉田の火祭りと言えば、静岡県の「島田帯祭り」、愛知県の「国府宮はだか祭り」と並び、日本三奇祭の一つに数えられ、400年以上の歴史を持つ伝統行事だ。使用する大たいまつは高さ約3m、重さ約200kgに及ぶ巨大なもので、燃えさかる大たいまつが赤々と夜空を焦がすと、富士山の夏山シーズンが終わり

を告げる。道路の石は、その大たいまつを置くために造られたものだったのだ。

現在の道路は、1998年ごろの整備で、コンクリート舗装を施して「御影石」を埋めてある。コンクリートにしているのは、アスファルトよりも耐熱性があるからだ。そして自然石である御影石は、さらに熱に強い。巨大なたいまつが燃えさかる際、発する熱やこぼれ

落ちた炎が路面を溶かす可能性があるため、このような舗装にしたそうだ。

現在は祭りの際、石の上にさらに耐熱板と砂を敷き、たいまつが直接地面に触れないようにしているという。

年に1度の祭りのために、道路に施された舗装と石。他では見られない変わった風景は、地域の人々の富士山や祭りへの「熱い思い」が生み出したものだった。

電子版「さんにちEye」では、山梨県内のちょっとした疑問を解き明かす「やまなしの『なぜ』」のコーナーを設けています。

【写真上】富士吉田市の国道139号(富士みち)で見かける円形の石(下)円形の石は、20m間隔で舗装に埋められている。いずれも富士吉田市内上吉田2丁目



ケータイ記事
えーっと驚く光景、おーっと感動する景色、ぶっと噴き出しそうなシチュエーション…。「ケータイ記者」では、みなさんが撮ったとおきの写真をお待ちしています。携帯電話やパソコンで応募できます。投稿はホームページ (http://www.sannichi.co.jp/joinus/m)

理想を語り行動する

2016年はいかなる年であったのか、最終回に振り返ってみたい。
国際的にはビッグニュースの連続だった。6月には英国の国民投票で欧州連合(EU)離脱が過半数を占め、11月には米大統領選でトランプ氏が勝利するという驚きの結果がもたらされた。

曲解する風潮

衝撃的な二つの出来事。背景にはグローバル資本主義の中で不満を募らせる低所得者層の存在があり、保護主義によって自国の利益確保を優先すれば生活が改善するのではという彼らの期待があった。それは多くは国における移民への排斥運動の高まりとも動機を一にしている。

しかし英国のEU離脱が成しとげられたのは不透明な部分があり、トランプ政権がいかなる政策をどのような形で推進するのかが目分らない。現状への不満の声は表明されたが、未来はまだまったく確定していないのだ。その意味で、今年の人々の

論考2016 上田 紀行 噴出する攻撃的な「本音」

「本音」が噴出した年と言え、米国内で抑圧されていた本音の噴出も「本音」を語り出したこと、痛切に感じた人が多かったことを示している。恐ろしいのは「本音を語る」と「イコール」自己の利益のために他者を攻撃、排除し、自分たちの利益の確保をいかにしようと曲解する風潮が広がっていることだ。そしてそれ以外にキレ事だ、イデオロギーなど見下す。危険な兆候だ。

トランプ氏があれだけの人気を獲得したのも、ポリティカル・コレクトネス(差別・偏見を含まない政治的に公正な発言)が極度に求められる中で、7月に発生した相模原障害者施設殺傷事件の容疑者、英国旗を手に暴ぶ支持者、ロンドン(6)月共同



「本音」が噴出した年と言え、米国内で抑圧されていた本音の噴出も「本音」を語り出したこと、痛切に感じた人が多かったことを示している。恐ろしいのは「本音を語る」と「イコール」自己の利益のために他者を攻撃、排除し、自分たちの利益の確保をいかにしようと曲解する風潮が広がっていることだ。そしてそれ以外にキレ事だ、イデオロギーなど見下す。危険な兆候だ。

トランプ氏があれだけの人気を獲得したのも、ポリティカル・コレクトネス(差別・偏見を含まない政治的に公正な発言)が極度に求められる中で、7月に発生した相模原障害者施設殺傷事件の容疑者、英国旗を手に暴ぶ支持者、ロンドン(6)月共同

者は事件前に、障害者は「不幸を作る」としかできないと身勝手に主張し「安楽死」を求め、手紙を衆議院議員に持参していた。他にも沖縄の機動隊員による「土人」発言や、フリーアナウンサーによる「ブコ」発言、その内容が許されないこと、当然として、以前なら決して公言できなかったような言葉が堂々と発せられた。

以前からインターネット上で顕著だったこうした傾向が、今年は社会の表面に浮かび上がった印象がある。橋下徹前大阪市長や作家の百田尚樹氏ら劇的に着せぬ「本音」を集める傾向が顕著になっていること無縁ではないだろう。

しかし人間の「本音」はすべて利己的、攻撃的なものか？ あるいは、それもまた偏見だ。平和をキレ事ではなく本音で願っている人はたくさんいる。独裁国家で命懸けで人権を希求している人たちも少なくない。

オバマ大統領の広島でのスピーチが感動的だったのは、その中に外交的な美辞麗句

何でなく、核兵器廃絶を願うオバマ氏のいっしょに本音が感じ取れたからだ。水俣病の公式確認から今年60年を迎えた水俣を訪ねた時に、私が感動したのは、長年献身的に患者を支えたいと支援者たちの心から思いやりと行動の中に、私たちがひとりひとりに、そのままたま本音が共存している。その中から何を本音として語り出すかが、人間の在り方を決定している。それが偽善だ、キレ事だと冷笑されても、本気世界の苦しみに向かい合い、ともに支え合って生きていくという本気の「本音」で、私たちが深い人間性を感じ、心を動かされる。

10 Go! Go! Let's Go! (E-girls) (新聖堂甲府駅ビル店調へ)

国内

- 1- 二人セゾン (樟坂46)
- 2- ①恋 (野野原)
- 3- ④PPAP(ペンバイナッポーアツ)

U S A

- 1- ①Black Beatles (レイ・ジュリマー)
- 2- ③Starboy (ザ・ウィークエンド)
- 3- ②Closer (ザ・チェインズモーカーズ)
- 4- ⑥Side To Side (アリアナ・グランデ)
- 5- ④24K Magic (ブルーノ・マース)

山梨 (樟坂46)

- 1- 二人セゾン
- 2- 愛!wanna be with you...